とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	連携型認定こども園ミナパもくせいの
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

『動植物』

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しています。クラス名を果樹の名前にしており、その果樹が全て植えてある果樹園の園庭があり、また、生き物もメダカや川魚だけでなく、烏骨鶏を飼育していて、産んだ卵を使用した食育も行っています。身近な園環境の中で動植物に出会う場が日常的にあり、”とうきょうすくわくプログラム”ではさらに興味関心の深まりを期待してテーマの設定を『動植物』としました。

２．活動スケジュール

1年を通して園庭（果樹園）で様々な草花に触れながら活動を行う。室内に絵本棚を設置し、動植物に興味を持てるような絵本を準備する。絵カードなども環境の中に準備し、日常的に野菜の種類などを知れる環境を作る。

９月頃：戸外あそびの中でみかんやりんご等の果樹に触れたり、身近な野菜の紹介を行う。

10月～：野菜や食べ物が描かれている絵本に使われている野菜の種を蒔き、栽培を始める。

継続的に世話を行う

2月：じゃがいもの種植え・なでしこ（花）の紹介と種植えを行う

世話をしながら、植物の成長を観察する

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

日常的に動植物に興味を持てるよう、本棚や絵本、図鑑、絵カードなど、室内環境に準備した。

また、室内の観葉植物やメダカの世話をするなど、動植物との関わりが持てるようにした。

プランターと植物の種を準備し、水やりのためのジョウロを置いた。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

日常的に果樹園で遊ぶ機会が多いので、日々の遊びの中で木に実ができたり、花が咲いたり、葉っぱが散ることなどを知り、触れていった。野菜や花の種を蒔き、土で育つ・水で育つなどの違いを知ったり、給食に出てくる食材を絵本や図鑑、絵カードで紹介していった。野菜の栽培では種をまいて世話をしていたが、発芽しないものもあり、全てがうまくいくわけではないという経験もすることができた。

メダカの世話として、日々のエサやりを行う。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

果樹園の木に実ができていたり、花が咲いたりすると「これなに？」と言って見たり花の匂いをかいだりしていた。室内では絵本を見て「おんなじだね」などと、戸外で見つけた植物と比べる姿もあった。日常的に本などで見ていることもあり、様々な植物に対しての興味を持つことが多く見られた。種まきをした後はプランターを日々見に行ったり、水をあげる姿があった。「おみずあげたい」と積極的に水やりをし、「なにもないね」「おおきくなーれ」等の友だちと芽を見ながら話したり、植物に話しかけている様子もあった。
メダカのエサやりにはとても興味を示し、積極的に行っていた。また、「たべたよ！」「こっちのもたべてる！」とエサを食べるところを興味深く観察する様子が見られた。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

日々遊んでいる環境であるが、子どもたちは果樹に花が咲いたり、実ができたりすると観察をしていて、小さな変化にも気付くこと知り、身近な植物への関心をより増やしていきたいと思いました。また、自分たちで種まきをすることで、水やりを積極的にする姿があり、より興味を持っているように感じました。プランターで育てたものは成長したが、水栽培のものは芽が出なかったので子どもたちとの栽培の難しさも今回の”とうきょうすくわくプログラム”を通して気付けました。